

大牟田市立中友小学校

1 本校のESDの特徴

大牟田市では、『「持続可能な大牟田のまち」に向けて、つながりを理解し、かかわりを深める児童生徒の育成』を重視している。この基本的な考えを受け、一人暮らしの高齢者が多い校区の特色を踏まえ、5年生が校区民生委員と一緒に高齢者宅を訪問したり、大好き中友あんしんネットワークが実施する「ほっとあんしんSOSネットワーク模擬訓練」に参加したりしている。今年度は、6年生が『十日市を盛り上げよう』という新しい学習にも取り組んだ。また、4年生は校区内を流れる大牟田川の調査を通して、町を取組や地域を取組の歴史・人々の思いや願いを学習することで、地域への関心を高め、他者との関係性・社会との関係性を認識し、「つながり」や「かかわり」を尊重して、地域の一員として自分たちにできることを考えたり、実践したりする児童を育て、共生社会の構築を目指す取組を推進している。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

＜スローガン：地域とともに、未来につながる中友

生活・総合的な学習の時間を中心にした取組【福祉教育】【地域学習】>

- ・1年生（生活科）・・・「みんな なかよし（ともだち がっこう いきもの）」
- ・2年生（生活科）・・・「野さいをそだてよう」「レッツゴー町たんけん」「みんな生きている」
- ・3年生（総合）・・・「心の目を育てよう」
- ・4年生（総合）・・・「大牟田川調査隊～大牟田川の環境を守る～」
- ・5年生（総合）・・・「みんながつながる中友校区を目指して～子ども民生委員活動～」
- ・6年生（総合）・・・「十日市を盛り上げよう」

3 特徴的な活動事例

(1) 4年生「大牟田川調査隊～大牟田川の環境を守る～」 （総合的な学習の時間 33時間）

市内の5つの小学校が連携した『川プロジェクト』の取り組みを行った。本校では、大牟田川の観察や水質検査等をGTの先生に教わりながら活動した。大牟田川近辺の植物や、水辺に住む生き物について学び、全滅危惧種のカニがいることを知ることができた。また、子どもたちは「大牟田川がなぜ汚れたのか」、「汚れた川をきれいにするための大牟田市の取組」、「地域住民による取組」、「現在の企業の取組」、「現在生存する生き物」についてGTの先生に教わったり、資料をもとに調査をしたりした。大牟田川の歴史とともに、人々の活動や思いについて知ることができた。



【透視度計を使った水質検査】

学習を通して、今後もきれいな大牟田川を守っていくために、一人一人が考えていかなければならないことを感じ取り、川周辺のごみ拾いやポスター・リーフレット作成など、自分たちにできることを考え実践することができた。

(2) 5年生「みんながつながる中友校区を目指して～子ども民生委員活動～」

(総合的な学習の時間 49時間)

民生委員の仕事や役割について学習した後、「子ども民生委員委嘱状」を受け取り、「絵本教室」を行い、認知症の方への接し方・困っている方への接し方を考え、いつでも実践できるように民生委員さんと一緒にシュミレーションを体験した。次に、地域の方（高齢者宅など）への挨拶回りをして、子ども民生委員活動を行っていく上でのめあてをつかんだ。さらに、校区の高齢者の家を訪問し、長寿のお祝いに、手作りのプレゼントを渡した。また、高齢者福祉に役立つ「赤い羽根共同募金」について知り、十日市の日に銀座通商店街において街頭募金を行った。地域のためにも、街路樹の落ち葉掃除にも取り組んだ。これらの活動を通して、福祉活動への理解を深め、社会の一員としての自覚を持つことができた。



【長寿のお祝い訪問】

(3) 6年生「十日市を盛り上げよう」

(総合的な学習の時間 22時間)

十日市とは、銀座通商店街で毎月10日に行われている市場のことである。その十日市を盛り上げるための活動を行った。まず、十日市の歴史を知るためにGTの方から十日市の始まりや商店街の役割を話していただいた。その中で人と人とのつながりを大切にしていることに気づいた。次に、12月の十日市のもちつき大会に参加することが決まり、少しでも多くの人に集まってもらえるために何かできることはないか考えた。「十日市のチラシ」や「看板」を作成した。作成したものは、保護者配布や銀座通商店街に掲示をした。さらに、もちつき大会当日はマイクでの呼びかけやお餅の配布を行った。お餅を配布する際には募金も行った。集まったお金は住みよいまちづくりのための活動に募金した。



【十日市でのお餅配布】

これらの活動を通して、住み続けられるまちづくりのために地域の取組やそこに关わる人達の思いを知ることができ、自分達で考えたことを実践することができた。

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・ESDの取組を「中友ハッピータウンプロジェクト」と称し、各学年の系統性を明らかにしたことで、ESDを通して身につけさせたい資質・能力がより明確になり、学校全体や地域の方と連携した学習ができるようになってきた。

○課題

- ・新型コロナウイルス感染症などの感染拡大を予防するために活動が制限される中で、ICT機器の活用を含めた指導法の工夫や学習内容・体験活動を流動的に見直し、実施していく必要がある。